当院における医事業務の改革

～返戻の対策～

松浦 敬宣[1)]　風晴 俊之[1)]　美原 盤[2)]

1)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 医事課

2)公益財団法人脳血管研究所 美原記念病院 院長

[はじめに]当院は、医事業務およびその管理体制について十分とは言い難く、毎月の返戻率は約 10%と高く、病院の収入確保に大きな影響を与えていた。この課題の解決に向けて、令和 2 年度、医事部門の責任者として医事部門管理者の経験のある人材を採用、配置し、業務改善への取り組みを開始した。現在、医事課では医療行為が確実に換価されることを目標に返戻･査定減少に向けて取り組んでいる。今回、短期間で返戻の減少に成功したので報告する。

[取り組み]新たに着任した医事課責任者は、医事課の請求にかかる事実確認をするため、医事課内のスタッフを招集し、返戻･査定の実態について現場から説明を受けた。返戻が生じた場合、詳記等どのように対応しているかなど詳細な流れを把握し、返戻の原因分析を行った。その結果、医事課スタッフが診療請求について十分に理解していないことが大きな要因として考えられた。そこで、医事課スタッフを病棟へ出向かせ、医療行為等の見学や実施入力の方法などについて確認させた。また返戻処理の滞っているものについて明らかにし、それらについてまとめて処理を行った。

[結果]介入前後 6 ヶ月間の返戻点数の比較を示している。今回の介入前である令和元年度は 350 万点を超えているが､介入後である令和 2 年度は約 140 万点まで減少した。内訳を見ると、特に手術詳記、病名不備による返戻は大幅に減少した。保険変更、誤りの返戻について意図的な取り下げ依頼はなくなったが、登録誤り等による返戻は残存し、改善の余地を残している。返戻率について、介入前は 11.5%でしたが、介入後は 5.4%と減少を示しました。令和元年度返戻点数は 3,498,962±800,965 点/月(MIN264 万点～MAX536 万点)であり、平均 11.1%と高い返戻率を示していた。令和 2 年度に入り対策を講じた後の 4 月から 10 月までの半年間、返戻点数は 1,476,341±474,756 万点/月(MIN69 万点～MAX200 万点)となり、返戻率 5.2%と半分以下まで減少した。

[まとめ・考察]医事課の管理体制の甘さからレセプト請求業務について適切な監視のもとで行われていなかった。今回、事務部門を再編成し、第 3 者的視点が入ることに

よって、課題が明確となり、請求業務の質向上につながったと考えられる。医事業務は医療従事者が行った医療行為を確実に換価していくことが重要な役割であり、そのために医事課職員は医療行為に対する理解を促進していくことが必要である。